

2022年度北陸ユネスコスクール実践交流会
2022年12月3日(土)14:00:~16:00
オンライン開催

SDGs達成に向けた ESD及びユネスコスクールの最新の状況について

(特定非営利活動法人) 持続可能な開発のための教育推進会議 (ESD-J) 共同代表理事
日本ESD学会副会長
鈴木克徳

E-mail: katsunori0501@jcom.zaq.ne.jp

電話 : 090-4594-9694

ESDを巡る最近の内外の動向

国際的な動向

持続可能な開発のための国連海洋科学の10年（2021~2030年）
第7回ユネスコ国際成人教育会議（CONFITNIEA）（6月15~17日）

- 今後12年間の社会教育・成人教育の展望をまとめたマラケシュ行動枠組を採択

国連教育の変革サミット（9月16~19日）NY

- 若者の役割を強調するとともに、国連事務総長による以下のビジョン・ステートメントが公表された。
 1. すべての学習者の成長をサポートする学習環境の確保
 2. 教師が自らを変革し、変化の担い手となることを可能にする
 3. デジタル革命を公教育のために活用する
 4. 教育への投資をより多く、より公正に、より効率的に行う
- また、気候変動教育を推進するための教育のグリーン化パートナーシップ（Greening Education Partnership）が創設された。

気候変動COP27（11月6~20日）

生物多様性COP15（12月7~19日）

- ポスト2020生物多様性枠組の採択を予定
- これを受けて来年春には次期生物多様性国家戦略を策定

気候変動教育、生物多様性教育の推進と統合

ESDを巡る最近の内外の動向

国内の動向

ユネスコスクールシステムの見直し

- ユネスコスクール申請システムの変更
- ユネスコスクールの定期的レビューの導入

第14回ユネスコスクール全国大会／ESD研究大会の開催

- 2023年1月22日（日）ハイブリッド方式
- 会場：渋谷教育学園渋谷中学高等学校（東京・渋谷）
会場参加は先着200名
- テーマ：「子どもの未来、教師の未来、学校の未来——SDGsを目指した学校教育・学習活動を探る」

ESD推進ネットワーク全国フォーラム2022

- 2022年12月10日（土）12:30～17:00ハイブリッド方式
- 会場：国立オリンピック記念青少年総合センターカルチャー棟小ホール
- テーマ：実践的・包括的なSDGs人材育成を目指して ～気候変動教育からはじめよう～

ユネスコスクールの定期的レビュー

● ユネスコスクールの5年ごとのレビュー・システムを導入

- ☆ 定期的な見直しによりユネスコスクールの最新の動向に対応し、また、ネットワークを強化することにより、ユネスコスクールの更なる改善を図る
- ☆ ユネスコが推進する活コクのシステムでも定期的レビューが導入されていることに対応
- ☆ **この定期的レビューは、ESDの更なる改善を目指すためのものであり、ユネスコスクールの成績評価とかランク付けを目指すものではない。**

● 具体的なレビューの方式

- ☆ 認定された順に毎年約200校ずつをレビュー
 - 北陸は比較的早期に認定された学校が多かったために、2022年度には30校弱がレビュー対象に
- ☆ レビュー対象校は、活動チェックシート及び関連資料を提出
 - 活動チェックシートの中で自己評価を実施
- ☆ レビュー対象校は、研修会に参加（必須、ただし誰が参加するかは自主判断）

ユネスコスクールにおけるレビュープロセスの導入

ユネスコスクール登録後の扱いについて

【これまでの日本の状況】

- 年次報告書の提出時に認定継続・解除希望調査を行い、以下のいずれかに分けられる。
 - ・認定解除を希望する学校、及び、2年連続で年次報告書が未提出の学校
→ **認定解除**
 - ・それ以外の学校
→ **自動的に認定が継続されている**

【ユネスコの制度】

- **メンバーシップ期間(3～5年)が導入され、必要な条件が満たされた場合に、更に3～5年の更新が可能とされている。(※)**

レビュープロセスの導入

※参考

ユネスコ本部が求めている基準と要件等(ユネスコスクールナショナルコーディネーター用ガイドより抜粋)

7. 期間

メンバーシップには3年から5年の定められた期間があり、その範囲内でナショナルコーディネーターが柔軟に決定します。メンバーシップは必要な条件が満たされれば同期間更新が可能です。その主な検証方法は年間メンバーレポートであり、ナショナルコーディネーターが訪問、あるいはその他のモニタリングや評価方法によってこれを補完することができます。ユネスコも品質確保のために、選択的モニタリングを実施する場合があります。

レビュープロセスの導入

【目的】

○加盟校の活動の質の担保

- ・加盟校自身が**活動を振り返る**とともに、**有識者による助言**や、**加盟校間の優良事例の共有やディスカッション**をとおして、今後の活動を発展させていくための参考にしていただく機会を提供

○ネットワークの強化

- ・ユネスコスクールがユネスコスクール向けの支援先に行きつけないという課題
 - ネットワークの強みを生かして**加盟校が支援につながるきっかけを得ていただく機会を提供**
- ・加盟校間での意見交換や情報共有
 - 互いに学び合うことでユネスコスクール間のネットワークを強化**

ユネスコスクールの定期的レビュー

●レビューの進め方

☆各校に対し、文科省／ユネスコスクール事務局（ACCU）が指名する3人のレビューアドバイザーが活動チェックシート及び関連資料を検討

☆それぞれのレビューアドバイザーが1～5点のスコアをユネスコスクール事務局に報告
今回は3人のレビューアドバイザーがチームを組み、23～24校の検討を実施

☆一人でもレビューアドバイザーのスコアが2以下の場合にレビューアドバイザー会議を開催し、中期活動改善計画の提出を求めるかを判断。

中期活動改善計画の提出を求めるケース：

①レビューアドバイザーのスコアが2以下の場合

②活動チェックシートが提出されていない場合

●定期レビュー結果の通知

☆定期レビュー結果は、ユネスコスクール事務局からレビュー対象校に通知
今回は12月中旬に通知される予定

☆中期活動改善計画の提出を求められた学校は、計画を作成し、提出。
その際、担当したレビューアドバイザー1名が計画作成に対して助言

ユネスコスクールの定期的レビュー レビューを行ったうえでの所見（感想）

- 今回は、事前の周知が不十分であったため、かなりの混乱が生じた。
 - ☆レビュー対象校に対する周知が不十分で準備期間も短かったため、必要な書類が提出されないケースが頻発した。
 - ☆関連書類が十分に提出されないケースが多くあったため、レビューアドバイザーは、ユネスコスクールウェブサイトや対象校のホームページの情報を加味して判断したケースも見られた。
 - ☆一部に活動チェックシートが提出されないケースが見られたか、最終的に提出されるまでの督促が行われなかった。
- レビュー対象校の自己評価とレビューアドバイザーの評価とは必ずしも一致しない。
- 中期活動改善計画提出対象校には3通りのタイプがあった。
 - ①中期活動改善計画の提出を自ら望んだ学校
 - ②レビューアドバイザーのスコアが低かった学校
 - ③活動チェックシートを提出しなかった学校

ユネスコが特に重視している3つの分野について

ユネスコが特に重視している3つの分野（1.地球市民および平和と非暴力の文化、2.持続可能な開発および持続可能なライフスタイル、3.異文化学習および文化の多様性と文化遺産の尊重）に沿った活動を実践しているか。

文部科学省の解釈

- 3つの重点分野で均等に活動を行うことを求める趣旨ではない。一部分野を中心的、重点的に推進することは可能。
- ESDの解釈にもよるが、1.~3.は全てESDに含まれると解釈できる。ESDだけ実施するのではダメとの誤解が一部にあるようだが、そのような趣旨ではない。
- ただし、新規のユネスコスクールの申請に際しては、この3つの重点分野について、記述ぶりに差はあるとしても、それぞれ何らかの記述を行うことは求められる。

ご清聴ありがとうございました。